

○公的医療機関等2025プランについて（地域医療構想関係部分抜粋）

藤田保健衛生大学病院

【地域において今後担うべき役割】（P10）

当院は、大学病院として、**高度急性期を中心に医療を提供する施設**であると自負しております。また大学病院である以上、医療従事者の養成について責任を担い、また高齢化が進み高齢者人口が増加する県内において、回復期や緩和ケア等、今後さらに必要性の高まる分野について、人材拠出することが必要と考え、平成30年に**回復期ケア病棟の設置、緩和ケア病棟の拡充を図ります**。また精神疾患の治療が必要かつ重篤な身体疾患のための入院治療を必要とする精神・身体合併症患者の受入れを積極的に行える体制を整えており、地域で減少している精神病床を51床確保しており、**院内の救命救急センターと精神科が連携して急性期治療を行う体制も確保しております**。

藤田保健衛生大学病院は、“最高水準・質の医療を提供し、社会に貢献する”をミッションとし、今後達成するビジョンとして、①常に安全で患者満足度の高い先進的な医療を提供、②大学病院を核とした総合医療ネットワークによる新しい医療・福祉を提供、③国際的な医療水準と最良のホスピタリティを持つ大学病院として、あらゆる患者ニーズに応える医療を提供、④高い臨床力を持ち、藤田イズムを継承する医療人を育成 を掲げ、最高水準・質の医療を提供するとともに、地域医療に貢献するため市民病院的な役割も担うことが求められていると認識しています。そのためには、地域医療機関、福祉施設等との連携強化も今まで以上に必要であると考えます。

建学の理念“独創一理”を、フロンティア精神、創造と持続的な自己改革と捉え、地域、圏域のみならず、日本全国に発信できる大学病院であり続けることが、地域において担うべき役割であると認識しています。

<今後担うべき役割>

- ・大学病院、特定機能病院として、**高度急性期の医療提供体制を維持する**。
- ・教育機関として、需要が望まれる**回復期及び緩和ケア**について、病床を確保、拡充し、医療従事者への教育、要請を拡大する。
- ・地域医療に貢献するための連携強化を図る。

【今後持つべき病床機能】（P10）

地域医療機関との連携強化を今まで以上に図り、従来通り、**高度急性期及び急性期病床**を中心とする。今後必要性が高まる回復期ケア、緩和ケアを中心とした**回復期、慢性期機能**も、教育機関として臨地教育の場として、病床を保有する。

<今後持つべき機能>

- ・大学病院、特定機能病院として、高度急性期及び急性期の病床数の維持。
- ・需要が望まれる回復期及び緩和ケアについて、病床を確保、拡充。

【今後の方針】（P11）

	現在 (平成28年度病床機能 報告)		将来 (2025年度)
高度急性期	1214	→	1178
急性期	62		80
回復期			60
慢性期			10
(合計)	1276		1328

※プランにはH28年度の休棟分の病床数（108床）が含まれていない。

- ・地域に不足する回復期機能を提供するため、平成30年開院予定の新病棟に回復期リハビリ病床を60床設置する予定（急性期から回復期に変更）
- ・病棟機能変更に伴い、緩和ケア病床を増床（19床→37床）
- ・病棟機能変更に伴い、慢性期機能の独立行政法人自動車事故対策機構一貫症例研究型委託病床5床を含む障害者施設等入院基本料を10床設置（急性期から慢性期に変更）

【その他の数値目標】（P12）

医療提供に関する項目

- ・ 病床稼働率： 95%
- ・ 手術室稼働率： 90%
- ・ 紹介率： 90%
- ・ 逆紹介率 70%

経営に関する項目

- ・ 人件費率： 30%
- ・ 医療収益に占める人材育成にかかる費用（職員研修費等）の割合： 5%